

# 滑膜肉腫（かつまくにくしゅ）

## 滑膜肉腫について

滑膜肉腫（Synovial sarcoma）は、軟部組織に生じる悪性腫瘍の一種で、名前から関節の滑膜細胞が由来と考えられがちですが、実際には未分化な間葉系細胞から発生すると考えられています。若年層に多く見られるのが特徴で、進行が速い場合もあれば、ゆっくり成長する例もあります。一方で、転移や再発を起こしやすい側面もあるため、早期発見と適切な治療が重要です。滑膜肉腫には特異的な融合遺伝子 SS18-SSX（SYT-SSX）が存在するため診断に有用です。

## 疫学

滑膜肉腫はどの年齢でも発症する可能性がありますが、比較的若年者に多く発生する腫瘍です。症例の 77% は 50 歳未満で発症すると報告されています。稀な腫瘍であり、発症率は年間 100 万人あたり 1-2 人程度とされています。

## 発生部位

滑膜肉腫の大部分（約 70%）は、下肢および上肢の深部軟部組織、特に関節近傍に発生することが多いと報告されています。また、約 15% が体幹に発生し、7% が頭頸部領域に発生します。まれな罹患部位としては、外陰部やお生殖器官、腎臓、副腎、後腹膜、胃、小腸、肺、心臓、縦隔、骨、中枢神経系、末梢神経などが報告されています。

## 症状について

滑膜肉腫は腫れやしこりとしてあらわれ、痛みを伴うことがあります。発育が比較的緩徐で、腫瘍が小さい場合があり、良性腫瘍と間違われる可能性があります。

## 診断について

診断の際は、まず身体所見に加えて MRI や CT などの画像検査を行い、腫瘍の大きさや広がりを把握します。レントゲンや CT では石灰化を認めることがあります。確定診断には生検による病理組織検査が必要となりますが、滑膜肉腫には特異的な融合遺伝子 SS18-SSX (SYT-SSX) が存在するため診断に有用です。

## 治療について

治療の基本は外科的切除であり、他の悪性軟部腫瘍と同様に広範切除（腫瘍の取り残しがないように、周囲の健常な組織と一塊にして腫瘍を摘出すること）が推奨されます。滑膜肉腫では化学療法の有用性が報告されており、腫瘍の大きさや部位、患者さんの状態を考慮してドキソルビシン、イホスファミドなどによる化学療法を行うことがあります。

## 執筆者

- 氏名： 酒井 智久（さかい ともひさ）
- 所属医療機関： 名古屋大学附属病院
- 診療科： 整形外科
  
- 氏名： 西田 佳弘（にしだ よしひろ）
- 所属医療機関： 名古屋大学附属病院
- 診療科： リハビリテーション科